

# なし管理情報 No.2

令和8年3月17日  
下野方梨組合  
魚津市農業協同組合  
富山県新川農林振興センター



## 1 開花予測

- ・現在、「幸水」は萌芽期に入っている(3/16時点)。
- ・開花始めは「豊水」が4/12~13、「幸水」が4/15~16で、平年に比べ1~2日早い見込みとなっている。
- ・新潟気象台発表の1か月予報(3/12発表)では、向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%と見込まれている。

【果樹研究センター開花予測 (R8.3.16現在)】

年次	豊水	幸水
	開花始	開花始
<b>R8 (予測)</b>	<b>4/12~13</b>	<b>4/15~16</b>
R7	4/12	4/15
平年	4/13	4/17

※ R7年値は果樹研究センター実測値  
平年値は過去20年間のデータから算出



果樹研究センター  
最新の開花予測



気象庁  
2週間気温予報  
(富山県)



気象庁  
1ヶ月予報  
(富山県)

## 2 病虫害防除

### (1) 今後の防除

開花前後が黒星病の重要防除時期である。下記の時期を目安に、天候、生育状況に合わせて、遅れないように防除を実施する(なしの生育ステージは参考1を参照)。

回数	散布時期の目安	散布薬剤と希釈倍率	対象病虫害	10aあたり散布量	実施日(自己記入)
1	3/24~26頃 りんぼう 脱落直前	デランフロアブル 1,000倍	黒星病、黒斑病、赤星病、 心腐れ症(胴枯病菌)	300ℓ	
		マイリノー 20,000倍			
2	4/3~5頃 りんぼう 脱落期	トレノックスフロアブル 500倍	黒星病、赤星病、黒斑病	300ℓ	
		ダイアジノン水和剤34 1,000倍	ハマキムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類		
		マイリノー 20,000倍			
3	4/13~14頃 開花直前	オンリーワンフロアブル 4,000倍	黒星病、赤星病	300ℓ	
		ベルコートフロアブル 1,500倍	黒星病、黒斑病、輪紋病、 うどんこ病		
		マイリノー 20,000倍			
	3回目散布後 2日程度あけて	「二十世紀」に追加散布 ロブラール水和剤 1,000倍	黒斑病		

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意する。
- ・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用する。

## (2) 黒星病対策

### ① 落葉処理の見直し

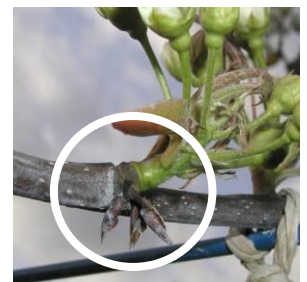
園地内に葉の形をとどめた落葉がみられる場合は、再度落葉処理を実施する。  
実施時期：本格的に子のう胞子の飛散が始まる前（3月中）に実施する。

### ② 芽基部病斑の除去

芽基部病斑は、見つけ次第摘み取り、園外で処分する。  
実施時期：人工受粉前から注意し、見つけ次第除去する。

### ③ 園地周囲の補正散布

薬剤のかかりにくい園地外周を中心に補正散布を徹底する。



黒星病芽基部病斑  
(りんぼうが落ちない)

## 3 今後の管理

### (1) 摘蕾

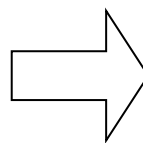
#### <ポイント>

- ・「幸水」の大玉生産のために、短果枝の花芽整理と、短・長果枝の摘蕾（芽たたき）を実施し、貯蔵養分の消耗を極力抑える。

- ① 主枝、亜主枝の先端部（先端から 50cm 程度）は全て摘蕾する。
- ② 側枝の先端 2～3 芽は全て摘蕾する。
- ③ 予備枝に花芽が着生している場合、全て摘蕾する。
- ④ 着果させる花そうは、可能な範囲で出蕾期に芽たたきを行い 2～3 花減らす（写真 1）。
- ⑤ 子花を持った花そうは必ず子花部分を摘蕾する（写真 2）。



処理前

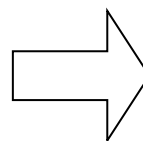


処理後

写真 1 摘蕾（芽たたき）



処理前



処理後

写真 2 子花の摘蕾（葉は残す）

## (2) 凍霜害対策

近年凍霜害が発生した園地や開花期に低温が予想される場合は、凍霜害対策として、事前に下記対策を実施し、被害の軽減に備える。

- ・ 雑草の草丈が長い場合は、短く刈り込む。
- ・ 冷気の通りを妨げる防風ネットや障害物等を除去する。
- ・ 開花直前又は開花中に被害を受けた場合は、残った健全花に人工授粉を徹底し、結実確保に努める。
- ・ 事前に下記の防霜資材を散布する。

### <各メーカーが目安としている防霜資材の使用手法>

商品名	使用時期	倍率	回数等	10aあたり散布量	備考
アイスバリア	発芽期～落花直後	250～300倍	制限なし	300ℓ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植物に吸収させて耐寒性を高めるため、降霜の2～3日前に散布するのが良い。</li> <li>・ 効果は1週間程度(無降雨時)。</li> </ul>
霜ガード	開花3～5週間前～開花期	50倍	3～4回 7～13日 間隔	300 ℓ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械油を散布する場合は、先に機械油を散布する。</li> <li>・ 石灰硫黄合剤との混用は不可</li> <li>・ 暖かい空気を資材に抱き込ませるため午後3時頃までに散布する。</li> </ul>
	開花期～幼果期	50倍	10～13日 間隔		

使用前に製品ラベルの使用手法をよく確認して使用する。

#### <凍霜害が起こりやすい条件>

- ・ 午後6時頃の気温が10℃以下でかつ1時間に1℃以上の気温の低下がみられる晴天無風状況。
- ・ 開花直前から落花直後の幼果期にかけて、-1.8～-1.3℃の低温に1時間程度遭遇した場合。

#### <お知らせ①>

- ・ 次号は、4月15日頃の発行を予定しています。

#### <お知らせ②>

- ・ 受粉用花粉の確保にむけて、採取機器(特に開葯器)の動作確認を行っていない場合は、早めに動作確認を行いましょう。

<問い合わせ先> 新川農林振興センター 宮本 52-5192  
JAうおづ 営農企画課 24-9923

## 参考 1) なしの開花までの生育ステージと防除適期

・開花期前後は、黒星病の重要防除時期です。以下の写真を参考に、適期防除に努めてください。

1 休眠期  
休眠状態



⇒機械油乳剤、又は  
石灰硫黄合剤（特散）

2 萌芽期  
鱗片生組織が見られる



3 りんぼう脱落直前  
蕾が少し確認できる



⇒デランフロアブル（第1回）

4 りんぼう脱落期  
蕾が鱗片から外側に伸長している、  
または鱗片が脱落している



⇒トレノックスフロアブル（第2回）

5 開花直前  
1～2割程度の花が開花している



⇒オンリーワン+ベルコート（第3回）

写真：南條雅信撮影

## 参考 2) 日本なし品種の自家不和合性遺伝子型

- ・なしは、自分の花粉や同じ遺伝子型の品種の花粉を受粉しても結実しない、「自家不和合性」という性質を持っています。
- ・自園地の花粉を受粉に用いる場合は、下表を参考に異なる遺伝子型の花粉を用

S遺伝子型	品種	S遺伝子型	品種
S <sub>1</sub> S <sub>3</sub>	松島、凜夏	S <sub>3</sub> S <sub>4</sub>	あきづき、筑水、なつしずく、秋麗、甘太
S <sub>1</sub> S <sub>4</sub>	はつまる	S <sub>3</sub> S <sub>5</sub>	豊水
S <sub>1</sub> S <sub>6</sub>	今村秋	S <sub>3</sub> S <sub>9</sub>	新高
S <sub>2</sub> S <sub>3</sub>	長十郎	S <sub>4</sub> S <sub>5</sub>	幸水、愛甘水、王秋、新水
S <sub>2</sub> S <sub>4</sub>	二十世紀、ゴールド二十世紀、菊水	S <sub>4</sub> S <sub>9</sub>	新興、南水、新星
S <sub>2</sub> S <sub>5</sub>	八里	S <sub>5</sub> S <sub>6</sub>	新雪
S <sub>2</sub> S <sub>9</sub>	愛宕	S <sub>5</sub> S <sub>7</sub>	晩三吉